OM日本ニュース　第91号　2024年冬号

Global

グローバル

特集

地球上を航行する２隻のＯＭ船―ロゴスホープ号とドゥロスホープ号。どちらも宣教を目的として「知識」「援助」「希望」を運び続けている。

２隻のＯＭ船

P4-5

P7

JCE7レポート
日本宣教の入り口に立ってみて

P2-3

ＯＭ日本総主事
私たち宣教師の「決意」とは

OM日本 Update アップデート

連載
MY JOURNEY
OM Alumniの歩み

現実とやりたいことの間で

P6

STM 2024年
短期宣教募集要項

P8

OM のミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

私たち宣教師の「決意」とは

船越 信哉　OM日本総主事

船越信哉・紗矢
2017－2019年にかけて、日本人として初めて家族でＯＭ船ロゴスホープ号に乗船。帰国後は全国規模でＯＭ日本のＰＲ訪問を担当。2022年よりＯＭ日本の総主事として従事。

『行きなさい…わたしはあなたを遣わす』使徒22:21

ジョン・マックスウェルの言葉。
「人は誰でも、一生のうちに、少なくとも一万人の人に影響を与える。」
私も、あなたも…。「一万人に影響を与える？この私が？そんなことあり得ない…」否定しても始まりません。問題は、「私が本当に一万人の人に影響を与えられるかどうか」ではありません。「どんな」影響を与えるか。自分の影響力を「どのように」使うか。

主が遣わし用いられたパウロ。人々に影響を与え、人々の役に立つために、何が必要だったのか。

①自信を失う

主が用いられる人、人の役に立つことができる人は、一度、徹底して自信を失っている人です。
自信…それは自分を信じること。自分の能力、経験を信じる。また自分のやり方、こだわりを曲げない姿。私たち人間には弱さがあります。そして、どんなに強そうに見えても、いつか弱くなります。できていたことができなくなる経験をします。自信満々で働きをしている時、そこに主の働かれるスペースはありません。失敗をし、弱くなり、自信を失うとき、『主の出番』です。主の働きが始まります。

②尋ねる

自信のある人は、尋ねることをしません。自信を失ったパウロは尋ねる人になりました。「主よ、私はどうしたらよいでしょうか」自信を失ったパウロは、人生の操縦席を主に譲りました。自信を失えば失うほどクリアになってくるもの、それはイエスキリストの存在です。

③聞く

私たちが人生の中で自信を失い、絶望し、尋ねるときに、答えてくださるお方がいる。イエスキリストです。パウロが「主よ、私はどうしたらよいでしょうか」と尋ねると、主が答えてくださいました。「行きなさい…わたしはあなたを遣わす」パウロはイエスさまの語られることを聞いて、従いました。

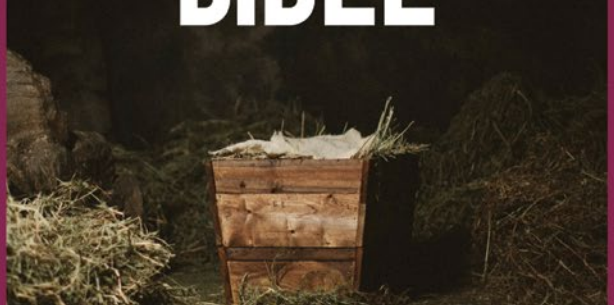
主は今も語っておられます。「自分の愚かさを認め、十字架を見上げなさい。」「わたしに従いなさい。」「行きなさい。わたしはあなたを遣わす。」

私たちＯＭ日本は主の声を聞くもの、従うものでありたいと願います。日本の教会に仕え、日本の教会の祝福になりたい、また日本の教会と共に日本人の救いを勝ち取っていきたいと心から願っています。

広告欄　郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はＯＭ日本事務局 info.jp@om.org までご連絡を

GLOBAL BIBLE INITIATIVE

THE CONCISE BIBLE



さあ、みんなで広めよう。みことばを。
今日ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになりました。この方こそ主メシアです。（新約聖書より）

「コンサイスバイブル」アプリ

聖書を読んだことのない方でも、聖書の概要と中心テーマが理解出来るように、分かりやすくまとめられた無料のアプリです。
聖書の全体像をつかんでいただくことができるので、そこからのディスカッションが始めやすく、ノンクリスチャンのご家族やご友人に、自信をもってお勧めできるアプリです。

Google Play で手に入れよう　App Store からダウンロード

GLOBAL BIBLE INITIATIVE (GBI) は米国テネシー州ナッシュビル市に拠点を置き、聖書翻訳及び世界宣教を目的とした団体で、現在、米国を始めグローバル範囲で活動を展開しています。https://gbi.llc をご参照ください。
引用聖句は、GBI が翻訳し、著作権を有しています。翻訳は聖書全体ではなく一部になります。

東京のお茶の水クリスチャンセンターにて、69名が参加した同窓祈祷会

❶ ゲストスピーカーの Lawrence (OM インターナショナル代表) ❷ 楽しかったお茶の時間の交わり ❸ 仙台アートチームによる寸劇

OM日本 Update アップデート

『OM Alumni Reunion』

かつてOMを通して世界宣教に参加した人たち『OM Alumni』(旧 Ex-OMer) と共に、今年9月2日土曜日、東京のお茶の水クリスチャンセンターにて同窓祈祷会が行われました。69名（OM同窓30名、OM日本メンバー26名、オンライン13名）が参加。**OMインターナショナル代表のLawrence & Susan夫妻も来日し、OMのビジョンを分かち合い、世界宣教のために共に祈りました。**

またお互いに証を分かち合うことができました。「主がどのようにOMの働きに導かれたか。そして現在どのような歩みを主が与えてくださっているか」帰国後も情熱を持って主に仕えている兄弟姉妹たちと交わり、お互いに励まされ心燃やされる時となりました！

今後もOM Alumniのお一人お一人を大切にし、共に日本宣教・海外宣教のために用いられたいと願っています。

『四国ビジョントリップ』

主がOM日本に与えておられる使命は「日本の教会の祝福となる」そして「日本人の救いを勝ち取る」です。

現在、主は私たちを4つの地区（北陸・東北・関東・東海）へ遣わしてくださっています。そして今、新しい場所へ出ていくことをチャレンジされています。次なる地区は『四国』です。

10月30日～11月2日、四国の6つの教会を訪問。四国での教会形成また宣教活動についての証を聞きました。

またお遍路（四国霊場八十八ヶ所）のうち、3つの大きな寺を訪れ、そこを訪れる人たちが本当の神に立ち返ることができるよう悔い改めと執りなしの祈りをしました。

OM日本から四国へ派遣する時、二つのことを大切に考えています。

・地元の教会を尊敬する
・チームで遣わす

これまで四国で主を愛して礼拝し宣教してこられた教会を尊敬する。そして、単独で派遣するのではなく、OM日本の中でチームを立ち上げ派遣することを計画しています。

今後、OM日本として『四国宣教』のために祈り続けます。主が「いつ」「どこへ」「誰を」遣わされるのか、導きを求めていきます。

そして、将来『Doulos Hope号』が来日する際に、OM船初の四国寄港ができればと期待しています。

❶❷ 主にあって繋がっていることを感じる教会訪問は祝福でした ❸ ４日間にわたる四国での車移動 ❹ 四国に散りばめられた霊的な砦「おへんろ」では、四国の人々の霊的解放のためにとりなし、また、福音がその地域に届くよう祈りました

特集 ２隻のＯＭ船

地球上を航行する２隻のＯＭ船―ロゴスホープ号（ＬＨ）と、ドゥロスホープ号（ＤＨ）。ＬＨは大西洋を中心にヨーロッパ、中東、アフリカ、中南米を回る大型クルーズ船。ＤＨはアジア専用の船として。どちらも宣教を目的として「知識」「援助」「希望」を今も運び続けている。

ロゴスホープ号
- 2009～現在
- 全長：132m
- トン数 12,500トン
- 乗客数：400人

ヨーロッパ　アフリカ　中東　中南米

Logos Hope

ＯＭ船第４隻目　ロゴスホープ号

正式名：MV Logos Hope　IMO Number: 7302914

行こう　３ヶ月半

OM SHIP STEP VIDEO

ＳＴＥＰ：OM船に３ヶ月の乗船

ロゴスホープ乗船期間
- 2024年5月15日～8月13日
- 2024年8月15日～11月13日
- **応募締切** 出発の４ヶ月前

ドゥロスホープ乗船期間
- 2024年5月9日～8月8日
- **応募締切** 出発の４ヶ月前

料金
- 1862-1883米ドル

資格・条件
- 18歳以上、日常英会話ができる

STEP (Short Term Exposure Programme)とは、ＯＭ宣教船への３ヶ月半の乗船を体験できるユニークなプログラムです。船上での生活はテンポが速く時に難しさもありますが、奉仕の心、学ぶ姿勢、柔軟性を持ってぜひご参加ください！一生に一度の素晴らしい経験になります。

活動内容：さまざまな国の人々と共に生活し働くことで、異文化でのクリスチャンの働き人に必要なことを直に経験することができます。日中は船内のいずれかの部署で実務を行います（週40時間／1日8時間）。週に1日はミニストリー Dayで、船上でのプログラムや陸上でのイベントなど、指定されたミニストリーに参加します（COVID-19の制約が適用されます）。基本的な英会話能力は必要。

随時募集

アメリカ・OM 船の書庫での働きと学び

アメリカ
- 期間３ヶ月、毎月受け入れ可能
- 開始月**３ヶ月前までに申し込み**
- ３ヶ月で1724米ドル
- 18歳以上。無料で英語の語学学習(ESL)を受講できます

サウスカロライナ州フローレンスにあるOMシップス・インターナショナルのキャンパスにて、神様に仕え訓練を受けることのできるプログラム。**宣教の経験がほとんどない人や、英語を上達させたい人に最適**。異文化への、また「宣教」と「教会動員」についてのより深い理解を得る機会を提供。

奉仕内容：午前は任意で英語の語学教室(ESL)を受講、午後はミニストリーセンターでの本の仕分け・梱包作業。 週一でデボーション、祈り会。その他チームイベントとチーム生活に参加し、アメリカ文化を体験。 **毎週木曜**はミッション＆モービライゼーションクラスで宣教＆異文化の学習。**日曜**は地元の教会を訪問＆奉仕に参加。

祈ろう

遠藤栄希

多田未菜美

田中実耶子

赤松のどか

スミスドルフ・黒田 恵真

川田留実（2月乗船予定）

乗船中の日本人クルーのため。体調が守られ、また霊性の面でも 高められるよう。

❶ マレーシア国のペナンに停泊するＤＨ　❷ 国際色豊かな若者の熱気はＤＨにも受け継がれている　❸ 塗装されるＤＨ

祈ろう

日本人として初めてＤＨに搭乗する花岡知恵香さんのために。彼女がアジアの祝福となりますように。

Doulos Hope

ＯＭ船第５隻目　ドゥロスホープ号

正式名：MV Doulos Hope　IMO Number: 8705278

ドゥロスホープ号
- 2023～現在
- 全長:85.5m
- トン数 3,370トン
- 乗客数:146人

アジア専用船

2023年5月に就航したドゥロスホープ号。ドゥロスホープ号はロゴスホープ号よりも小さな船です。その理由と特徴は、海底の浅い小さな港にも停泊できること、また川を通って奥地へも入って行けることです。

ドゥロスホープ号は、元はギャンブル船でした。名前は『Taipan』、「外国商社の支配人」という意味でした。奪い合うことが目的の船でした。

しかし主の恵みと導きにより、コロナ禍にOMが『Taipan』を買い取り、主の手の中に入った時、『ドゥロスホープ』「希望を伝える主のしもべ」へと生まれ変わりました。与えることが目的の船へと生まれ変わったのです。

Doulos Hope YOUTUBE

ＯＭ船の始まり

１９６０年代半ば、ＯＭ創設者ジョージ・バウワーはヨーロッパからアジアへ陸路で聖書や書籍を運んでいた。ある日、世界地図の前で祈っていた時、世界の大半が海であることに気づき、船を使って書籍を届けることを考案した。その当時、誰もが「不可能だ」と彼に言った。

初代　ロゴス号 (1970-1988)
全長: 83m　トン数: 2,319　乗客数: 144

ロゴス II 号 (1988-2008)
全長: 109m　トン数: 4,804　乗客数: 214

ドゥロス号 (1977-2009)
全長: 130m　トン数: 6,818　乗客数: 414

行こう

ロゴスホープ号またはドゥロスホープ号

世界中
- 1年または2年間の期間乗船
  乗船開始は毎年夏又は冬
- 開始月 **4ヶ月前までに申し込み**
- 毎月 785 米ドル
- 18 歳以上、日常英会話ができる

ＯＭ船には常時、多国からのクリスチャンがボランティアクルーとして乗船している。様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストリー。ＯＭ船乗船中は、毎日決められた部署での仕事を行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していく。

以前ＯＭ宣教に関わった人たちの、帰国後の歩みをテーマにしたシリーズ連載です

MY JOURNEY

OM Alumniの歩み

＊ Ex-OMer は、OM Alumni と名前を変えました。

現実とやりたいことの間で

田中　尚美

私は小さい時から全ての夢をかなえてきました。「絶対に思ったことは実現する、神様がそうしてくださる」と信じて生きてきたからです。しかし、下船後はそれまでスムーズにいっていた20年間とは違って、色んなことがあった14年間でした。

まず想定外の計画変更がありました。それは**18歳で夫と出会ってしまった**ことです。私はカナダでの高校生活を終えて、そのまま帰国子女枠で「聖書科教師」を目指すべく大学に入学しましたが、その年の8月には船に乗るために退学（休学はお金がかかるので）する予定でした。しかし、夫があまりにも足が長く、おまけにやさしくて好きになってしまいました。そして、出会って3週間目にはお付き合いが始まり、「帰国するまで待っているよ。」と言うのでお言葉に甘えて、**日本と船の超遠距離恋愛**が始まりました。**その間、夫が受洗に導かれたことが何よりもの祝福**でした。

下船後、同じ大学に再入学し、実質2学年上の彼と再会。その彼は、私が自分の教団の派遣でインドのユースキャンプに行っている間に就職が決まり、いきなり某企業の営業職、しかも転勤族に決まったと話を聞かされ、びっくり仰天！「えーショック」という感じでした。結果、彼は愛媛県へ。大学4年になり、私は相当悩みました。愛媛県での就職も考え、何社か受けました。それでも「私の人生これで良いのだろうか。彼との歩みと、私の聖書科教師への夢はどうなる？」やっぱり諦められない。そこで私は北関東にある学校の聖書科の採用試験を受けることにしました。筆記は無事合格、残すは模擬授業のみ。しかし、その模擬授業の日時が日曜日の午前中だったのです。牧師である私の父は猛反対。礼拝時間に採用試験するキリスト教主義とはなんぞや！という感じで、あえなくそこは辞退となりました。

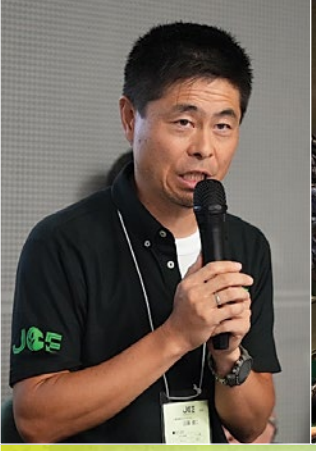
FaceTimeで彼と話し合い、そのままプロポーズ。婚約となったのですが、「30歳まで勉強しなさい」という父の思いもあり、私は**なぜか大学院へ進学**しました。**そして院の在学中に夫と結婚。次の日から兵庫と愛媛での別居婚が始まりました。**新婚なのに寂しいなとは思いましたが、バスで片道4時間ほどで会えたので船にいたときよりはマシでした。そんな中、主の強い導きにより、最後の最後で「絶対にならない」と言い続けた補教師になるため試験を受けました。そして合格。**しかし妊娠中だったこともあり、院を卒業後は夫のいる愛媛県松山市へ。**そして半年もたたずに同県の西条市へまた引っ越しになりました。徒歩10分のところに教会があり、そこの牧師がたまたま父の神学校の後輩でした。**事情を知った教会は私を伝道師として迎えてくださいました。**この神様の備えも驚くべきものでした。

地方の小さな教会の現状を目の当たりにしつつ、そこにいる信徒の方々の信仰から多くを学ばせていただきました。説教準備の際には牧師のお連れ合いさんや信徒の方がベビーシッターをしてくださいました。普段から帰りが遅く、土日の仕事も多かった夫、その上知らない地での育児が3年も続き、その間神様に「なぜ？」と問うことは何度もありました。けれども、心の底では絶対に神様は私に聖書科教師の道を用意してくれているとの確信がありました。

ついにその時は思いがけずにやってきました。母校の関東学院の先生からの年賀状に「聖書科を募集している」と書いてあったのです。夫は私の夢をずっと知っていて応援してくれていたので、「仕事を辞めても良い、受けな！」と言ってくれました。すぐさま、私は学校に問い合わせ採用となりました。そして、なんと夫の方も東京勤務となり転勤が決まったのです。

15年ぶりに故郷の横浜へ戻り、現在は育休中ですが、私は関東学院中学校・高等学校の教師として働き始めました。コロナ禍から始まった歩みでしたが、その間生徒やノンクリスチャンの先生との関わりの中で、やはり聖書の言葉をストレートに伝えたい、教会とキリスト教主義学校との懸け橋になりたいという思いが強められ、正教師試験を受け、**2022年3月に母教会で按手礼を受け、牧師となりました。**

正直**私は子育てが苦手です。教会での働きも中途半端にしかできていません。しかし、育てて下さるのは神様だと信じ、私は学校で若い魂の救いを信じて働かせて頂いています。**字数が限られているのでざっくりとしか書けませんでしたが、想定外の伴侶との出会いがあり、でもその出会いが私の支えとなり、好きな事をさせてもらえています。家事はほぼ私ですが、その分私のメンターとして支えてもらっています。下船後の生活は思わぬ導きもありましたが、神様が必ず必要を満たし、私たちの想像をはるかに超えるご計画を持っておられることを信じます。これからも「主に期待して歩むのみ」と思って歩んでいます。



JCE7(第七回日本伝道会議)が今後の日本宣教にもたらすもの

日本宣教の入り口に立ってみて

近藤　健二
OM三重チーム

「教会というのは、福音というのは、不快感を起こさせるものなのだ」

これは今年岐阜県で行われたＪＣＥ７（第七回日本伝道会議）の講壇より、塚本良樹氏（国際基督教大学／慶應／フラー神学校卒。現KGK主事）より発せられた言葉でした。

「使徒の働き10章」より、ペテロの**ビジョンの不快さ、異邦人との交わりの不快さ、それが遂にエルサレム会議（不快の頂点）**にまで発展していく。しかしそれが、今の私たち、いや**世界の教会と世界宣教（自分の民族以外への伝道）の土台を作っている**のだ。私たちは主が働かれた時に起こる「不快さ」への覚悟ができているか、という挑戦でした。

今回、６人のＯＭ宣教師がＪＣＥ７に参加しました。７年に一度しか行われない日本伝道会議は、2030年までの7年間の日本の教会の方向を示す重要なものでした。そのテーマは「おわりから始める」。会場となる岐阜市が尾張(おわり)地区であることにかけているのですが、もう一つの大事な意味があります。それは、現代の日本の社会やニーズにそって伝道をする上で、「何を始め」、そして「それを行うためには何を終わら(おわら)せるべきなのか」という問いを、日本の教会に投げかけるものだったのです。

少子高齢化や過疎化、若者の教会離れ、献身者不足などの様々な課題。この状態が長年蔓延している現代において、**多くの地域で教会は消滅寸前またはすでに消滅している**…。この問題の打開策を作るとなれば、これまであったものを壊さなければならない。昔から、常識や伝統を壊すことができるのは、**「馬鹿者」「よそ者」「若者」**と言われています。今回のＪＣＥ７では「講壇に上がるのは５０歳まで」という年齢制限をもうけ、若い牧師の発表が相次ぎました。

同盟基督教団の山本陽一郎牧師の言葉、「今の日本の教会はコロナから立ち上がろうとしている時。以前に第６回（2016年）伝道会議があったから第７回も、と当たり前と思って来てはいけません。これが日本の教会のターニングポイントになる！という会議にしましょう。」この通り、変化を求められた会議でした。

そういった中で「宣言文」が作られ、ＪＣＥ７最終日に読み上げられました。全６項目の宣言文の中で、４つが「宣教協力」についてでした。一つの項目につき、約３分かけて読み上げる長さの文章です。その一部を抜粋します。

第２項　立場を超えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

これは**信徒と教職者が、互いの役割を理解しつつ、協力、尊重し合って教会を作っていく**ことです。ワンマンなリーダーが全てを決め、会衆は黙って座って、聞いていれば良いという時代は終わりです。現代の日本での宣教はお互いを尊重した上で、全員で伝道していかなければならないということです。

第４項　地域を超えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

オンラインの力によって、**「物理的距離」に制約を受けないミニストリー**がすでに生まれている現実。もちろんオンラインは完全な方法ではありません。しかし、**過疎化や地理的な孤立を強いられている多くの教会がこれにより益を受ける**ことができます。また、諸所の教会の**孤立を無くしていくことで、異端化していくことを防ぐ**ことができます。

第３項　教派を超えた宣教協力を「はじめる」ことができるよう

言わずもがな、教団／教派／教会の壁を超えての宣教協力。**日本には１７０を超える教団があり、世界でも珍しい**状況です。そしてあまり健康的とは言えないようです。実際、４０代の牧師の多くが、**福音派とカリスマ派を分ける壁にうんざり**しています。そういった派閥は**人を惑わせ、信仰熱心な方の炎を消失させ**ます。日本の教会の**力を分散させ、宣教の力を奪って**いってしまいます。この宣言の実現に必要なものは、愛、悔い改め、また謙遜な心です。

第５項　文化を超えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

日本国内にある**外国語礼拝の方々との協力**。そして海外にある日本語教会との宣教協力。

私たち家族がＯＭ日本と共に三重県で働き始めて、早６年が経過しました。紆余曲折しながら、ここ数年は**「未伝地域での伝道」**と共に、**「三重県の教会を繋げ、諸教会を元気にしていく」**を活動内容にしています。後者の働きを続けていく上で、今回の伝道会議は私たちには大きな追い風となりました。これからも主が日本でその時、その時代になさろうとしていることを聞き、従っていけるよう、引き続き聖霊のささやきに耳を傾けて歩もうと思います。

STM短期宣教募集要項

左：ポーランド内のウクライナ難民支援
右：モルドバのアウトリーチ

モルドバ　アウトリーチ LOVE MOLDOVA

1週間

- モルドバ国内
- 2024年7月14-27日随時募集　奉仕期間は1週間から
  応募締切 出発の3ヶ月前
- 563 EUR
- 18-70歳　健康であること

❗ 現地の教会と協力し、子どもたちのためのデイキャンプを企画したり、高齢者の家を訪問したり、場合によっては必要な場所で実践的な手助けをしたりします。

❗ **奉仕内容**：子どもたちのデイキャンプでは、ゲームや工作、聖書のメッセージ、パペットショーや劇、また歌を歌うなど様々な活動をします。また各家庭や高齢者を訪問し、彼らの話を聞いたり、証しをしたり、食糧小包や聖書を配ったり、場合によっては実作業を手伝ったりして励まします。

LOVE MOLDOVA YOUTUBE

オーストリアでアウトリーチ

2週間

- オーストリア
- 2024年6月29日〜7月12日
  応募締切 2024年2月24日
- 839 EUR
- 18 - 70歳　会話は基本英語

❗ 夏のオーストリアには、アラビア半島からのアラブ人を含む何千人もの外国人観光客が訪れます。その多くは、自国では個人的にクリスチャンに会ったり、福音を聞いたりする機会を持ったことがありません。私たちはこのまたとない機会を生かし、オーストリアでの自由を利用してアラブ半島のアラブ人に神の伝えます。イスラム教の中心地、アラビア半島に住む人々に希望と光をもたらす特別な機会。また、イスラム文化や宗教についての理解を深めることができます

❗ **活動内容**：午前中は、礼拝と祈り、献身の時間を過ごし、証しを聞き、イスラム教とアラブ世界で生きることの意味を学ぶ特別授業を受ける。
午後と夕方、参加者は4人の伝道チームの一員となりシフトに入ります。各チームは、祈るペア（現地でとりなし）と、福音を個人的に伝え、文献（新約聖書、DVD、SDカードなど）を配布するペアで構成される。

随時募集

ウクライナ難民支援 by OM ポーランド

- ポーランド国内
- 随時募集
  応募締切 出発日の3ヶ月前
- 345 EUR／1週間につき
- 18－60歳 (基本的な英語と健康が必須)

❗ ポーランドのOMは、ウクライナから逃れてきた母子を支援し、トラウマ体験後の心理的•社会的なケアやサポートを行っています。キッズクラブ、ユースミニストリー、女性ミーティングを運営し、慰めを与え、喜びと希望をもたらし、キリストの愛を最も必要としている人々に伝えています。

❗ **奉仕内容**：ミニストリーには、チームハウスでの日常の雑用や食事の準備、買い物、倉庫の整理なども含まれる。チームハウスで共に過ごす時間は、交わりと分かち合いの機会となる。現在の活動は、40万人以上の難民を受け入れたワルシャワ周辺に集中している。人道的危機の状況下で活動しているため、ミニストリーの範囲や場所は事前の通知なしに調整することもある。

ウクライナ難民支援 YouTube

REACH：台湾で弟子訓練

4ヶ月

- 台湾
- 2024年9月3日〜2025年1月11日
  応募締切 2024年4月5日
- 126437　TWD
- 18 - 50歳　基本的な英会話能力必要

❗ REACHは、質の高い実践的な訓練を通して、各文化に適応した方法で宣教できるよう導くプログラムです。主の弟子として試練を乗り越える力を養い、福音を伝えられていない人々に手を差し伸べる神の使命に生き、アジア宣教の担い手となっていくことを目指します。

❗ **活動内容**：REACHはあなたが神との関係を深め、弟子として成長するのを助けると同時に、異文化宣教へのエキサイティングな入門を提供します。REACHは5ヶ月のプログラムで、トレーニング、準備、そして3回の伝道活動が含まれます。REACHでは、規律正しいディボーションライフ、ミニストリーのためのツール、自分自身への深い理解、そしてチームビルディングとリーダーシップのスキルを身につけることができます。

献金方法

OM日本では、下記の3つの項目で献金を受けつけています。

1. 日本から送り出されている宣教師へのサポート献金（宣教師の氏名を明記）
2. OM日本の事務局と活動資金
3. 世界中でおこっている紛争、災害の支援（アフガニスタン、ウクライナ難民、トルコ地震を継続して受けつけています）

サポート送金先：

【ゆうちょから】
郵便振替口座：02100-0-24998
口座名義人：OM日本事務局

【他行から】
店名：二一九（ニーイチキュウ）
店番：219　当座預金
口座番号：0024998（OM日本事務局）

送金の後は、こちらのQRよりフォームを記入して送金内容を事務局までお知らせください。

その他のお問い合わせは事務局まで連絡ください。電話：076-239-2830

OM日本・OM Japan
www.omjapan.org　fb.me/omjapan
info.jp@om.org　+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)
〒920-0277石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394
OM日本会報紙　グローバル　第91号　2024年冬号
発行人：船越信哉　編集＆デザイン：近藤健二

OM（Operation Mobilisation）は、世界約147カ国で3280名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、育成されていくことを目標にしています。